

国際研修(コ05)

目的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で、研修を国内外において政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成果**
1. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」を開催した。
 主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館(ベルリン・ドイツ)
 ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2017(平成29)年7月5日～7日、参加者：11名(アイルランド、イタリア、ドイツ、バチカン市国、ハンガリー、ベルギー、ポーランド)、その他オブザーバー3名。
 イ) 応用編「屏風の修復」、2017(平成29)年7月10日～14日、参加者：8名(イギリス、イタリア、スペイン、デンマーク、ドイツ、ポーランド)、その他オブザーバー2名。
 2. ワークショップ「染織品の保存と修復 (Workshops on Conservation of Japanese Textile)」を開催した。
 主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学(台北・台湾)
 ア) 基礎編「日本の染織品文化財」、2017(平成29)年8月9日～11日、参加者：10名(アメリカ、韓国、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、フィリピン、ラオス)、その他オブザーバー2名。
 イ) 応用編「日本の染織品の修復」、2017(平成29)年8月14日～18日、参加者：6名(アメリカ、シンガポール、セルビア、タイ、台湾、ラオス)、その他オブザーバー3名。
 3. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」を開催した。
 主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他、2017(平成29)年8月28日～9月15日、参加者：10名(アメリカ、アルゼンチン、イスラエル、オーストラリア、ギリシャ、中国、チェコ、フィリピン、ラトビア)。
 4. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」の評価を行った。
 アンケート、回答数：29。評価セミナー、東京文化財研究所、2017(平成29)年11月8日～9日、参加者：4名(アメリカ、ギリシャ、ドイツ、ベルギー)。
 5. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」の評価を行った。
 アンケート、回答数：50。評価会議、CNCPC-INAH(メキシコシティ・メキシコ)、2018(平成30)年2月7日。

- 刊行物**・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2017』東京文化財研究所 18.3
 ・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2017』東京文化財研究所 18.3
 ・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」評価 2017』東京文化財研究所 18.3
 ・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」評価 2017』東京文化財研究所 18.3

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、小田桃子、元喜載(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池理予(無形文化遺産部)、林昌宏、山崎泉美、小田切真梨、荒木晶(以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助(以上、客員研究員)